

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策I-2-1
売れる農林水産品・加工品づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 農産園芸課 鳥屋尾健史 電話番号 0852-22-5123

事務事業の名称	安全で美味しい島根の県産品認証事業		
目的	(1) 対象	消費者・生産者	
	(2) 意図	高い安全性と品質を兼ね備えた生産する生産工程管理の仕組みを認証する「美味しまね認証制度」を推進することを通じて、県内産農林水産物の安全性と消費者の信頼を確保し、産地（生産者）のレベルアップと市場競争力の向上を図る。	
事業概要	島根県が定めた生産工程管理基準に基づいて生産される県産農林水産物を認証する制度および認証制度の周知・普及を図る。 制度の目的は、①県産農林水産物の安全確保と消費者からの信頼づくり ②市場における競争力の強化 ③産地レベルの向上 ④認証取得者の経営基盤の強化を図ること。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 新規認証数（品目数）	目標値		6.0	6.0	6.0	6.0	品目
	式・定義	取組目標値				64.0	60.0	
	実績値		27.0	79.0				
2	指標名 美味しまね認証取得経営体数	目標値				370.0	470.0	経営体
	式・定義	取組目標値						
	実績値		174.0	270.0				
	達成率		-	450.0	1,316.7			%
	達成率		-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	10,487	17,337
うち一般財源 (千円)	10,487	12,009

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・JA生産部会や有機JAS農場などを中心に制度の導入支援を行った結果、79品目の新規認証となった。
- ・3つの組織で団体認証取得があり、取得経営体が大幅に増加した。
- ・農林高校での取り組みも広がり、出雲農林高校は昨年度に続き新品目での取得し、松江農林高校は新規に8品目の認定取得があった。
- ・GAPの取り組みがさらに進むよう、生乳の基準を新たに設定し、1経営体の認証取得があった。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 新規認証品目数が大幅に増加し、GAP及び美味しまね認証の普及拡大が進んだ。
- JA生産部会等での団体認証があり、他のJA地区本部や生産部会の認証取得につながる動きとし波及効果が期待できる。
- 新たな認証基準を作成し（生乳）、認証品目の幅が広がった。
- 県GAP推進協議会と連携し、GAPを指導できる職員の育成、GAPの取り組み推進を進めた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 美味しまね認証を中心としたGAPの取組が産地の中で浸透していない。
- 美味しまね認証制度や認証産品が県民、消費者に十分知られていない。
- 認証者数、認証産品は増加してきているが、全体としてはまだ少ない。
- 認証産品の販路を拡大したい。
- JGAPなどより高度なGAPに取り組みたいが、生産者に浸透していない。

②困っている状況が発生している「原因」

- 生産者や消費者に対する制度や認証産品のPRが不十分
- JAなど団体とも連携したGAP推進体制が構築途上
- 認証産品の販路拡大対策が不十分。
- 国際水準GAPの取得を支援する指導員数が確保できていない。

③原因を解消するための「課題」

- 制度の運営体制、推進体制の整備、GAP指導員の確保
- 制度、認証産品のPRの強化
- 消費者、販売事業者等のニーズ把握と販路拡大対策
- GAPの高度化への対応

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- JAなど団体と連携した推進体制の確立と団体認証を中心とした認証拡大
- 認証拡大に対応した制度運営体制の充実
- GAP指導員の育成確保、レベルアップ
- 制度や認証産品のPR強化、販路拡大支援
- 制度の見直し、新基準の設定
- 国際水準GAPの取得支援